

# この子らと

令和6年3月号

## 命輝く子ども



ぞう組保育参観(園内研修)

わくわく鹿児島中央認定こども園



園長 川口公男

### 春は、心が揺れ動く季節

「春なのに、お別れですか?」という歌詞があります。春になりますと桜が満開となり、希望に満ち、これからがどこまでも明るく、美しく、私たちの心をうきうきとしてくれます。

一方、卒園していく子どもたちや保護者のみなさまとの別れは、私たちの心に悲しみや喪失感を残します。春は、様々な感情が入り乱れる季節でもあります。

子どもたちと一緒に本園を卒園される保護者の皆さま、かけがえのない大切なお子様を本園にお預けくださり心から感謝申し上げます。

いたらぬ点多々あったことをお詫びするとともに、子どもたち、皆さま方あっての本園であったことは、職員の心に深く刻まれています。

皆様方の今後のご活躍とお幸せを祈り申し上げ、お別れの挨拶とさせていただきます。

#### “この時期の名言です”

人生は、出会いと縁と別れです。出会ってから別れるまでの間、うれしいことや悲しいことがあって、それらを無事に乗り越えて行くことが生きるということです。

(瀬戸内寂聴)

世界には、きみ以外に、誰も進むことができない、唯一の道があります。

その道は、どこに行きつくのかと問うことなく、ひたすら進みなさい。(ニーチェ)

元気を出しなさい。今日の失敗でなく、明日、訪れるかも知れない成功を考えるのです。(奇跡の人 三重苦のヘレンケラー)

子どもたちに名言の意味が理解できるのは、もう少し学年が進んでからだと思いますが。

### 《一足先に小学校体験》



西田小学校一年生との交流、学校探検では図書室に行ったり、購買部に行ったり、小学生の読み聞かせを聞いたり、漢字の筆順練習をしたりとするうちに、小学校へのあこがれが大きくなったのではと思いました。

4月からは、小学校で自分の歴史づくりを始めます。縁あって本園で出会ったお友だちとも支え合い、助け合って、楽しい小学校生活を送ってほしいと思います。

歌手グレーンキャンベルは、

「もし、友達が重い荷物をもっていたら、もし、仲間が誤った道を歩んでいるのに気づいたら…。肩をたたいて、声をかけてみようよ。暗い世の中が明るく、輝くかも知れない。」と話しています。

いよいよ3月も過ぎ去ろうとしています。4月になりますと柔らかな陽ざしとともに新年度を迎えます。

子どもたちも私たち大人も自らの可能性を信じることで人生が変わります。たった一度きりの人生、まず、自分の能力は、無限であることを信じ、挑戦し続ける生き方を選択してほしいと願います。

自分自身に限界をつくり、「できる」「できない」を判断したら新しいことや困難なことはできなくなります。子どもたちも大人も能力・可能性は努力し続けることで無限に広がると思っています。

“人生は、無限の可能性への挑戦の歩み”

新年度も職員一丸となって、子どもたち一人一人の可能性を信じ、成長へ導く教育・保育を進めてまいります。本年度、お世話になりました。感謝です!!